持続可能なファッション産業の実現に向けて ージャパンサステナブルファッションアライアンスの取り組みー



2025.11.4

産業構造審議会 製造産業分科会 繊維小委員会

- 1. ジャパンサステナブルファッションアライアンス団体概要
- 2. カーボンニュートラルに向けたこれまでの主な取り組み
- 3. ファッションロスゼロに向けたこれまでの主な取り組み
- 4. サステナブルなファッション産業実現のための課題と展望

1. ジャパンサステナブルファッションアライアンスの概要

■ 個社では解決が難しい課題に対して共同で解決策を導き出していくための企業連携プラットフォーム

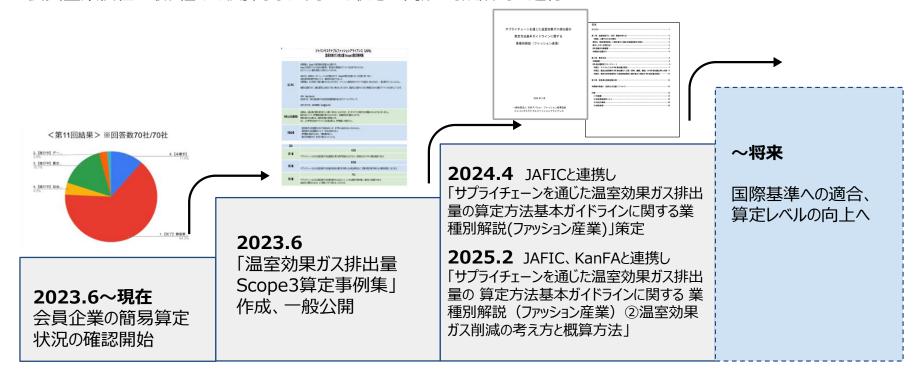
- **川上〜川下まで多様な業種/事業規模の企業が加盟**(正会員18社、賛助会員51社、計69社加盟)
- サステナブルなファッション産業への移行を推進することを目的とした知見共有や議論の場
- 2021年に任意団体として発足し、2025年8月一般社団法人化
- 2050年カーボンニュートラルとファッションロスゼロを目標に掲げ各種活動を実施
 - ファッションロスゼロ・カーボンニュートラル・人権をメインテーマに定例会/委員会/WGを中心に議論・実行
 - 国内外の重要動向についての**会員向け勉強会**の実施、**会員企業の取り組み事例共有**
 - 個社でも企業連携でも解決が難しい事象については政策提言を毎年実施



2. カーボンニュートラルにむけた取り組み(これまでの主な取り組み)

■Scope3算定促進に向けた取り組み

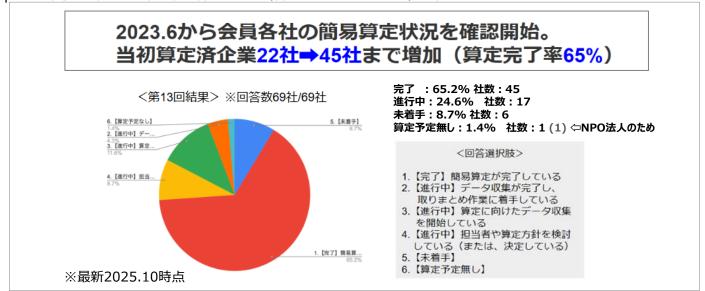
●まずは算定状況の現状把握をするところからスタート。その後、事例集作成や他団体とも連携したガイドライン作成により 会員企業個社の取り組みを後押しし、あるべき状態に向かって段階的に進行。



2. カーボンニュートラルにむけた取り組み (成果と今後の取り組み)

■会員企業のScope3簡易算定アンケート

●Scope3の簡易算定は算定開始時より大幅に増加、会員企業の約65%が完了。



■今後の課題と展望

- ●副資材やリユース/リサイクル関連企業の算定率が低く、業種による課題が判明。
- ●今後は業種に応じた算定率向上にむけた議論や、排出量の「削減」にフォーカスした取り組みを進めていく。

3. ファッションロスゼロにむけた取り組み (これまでの主な議論)

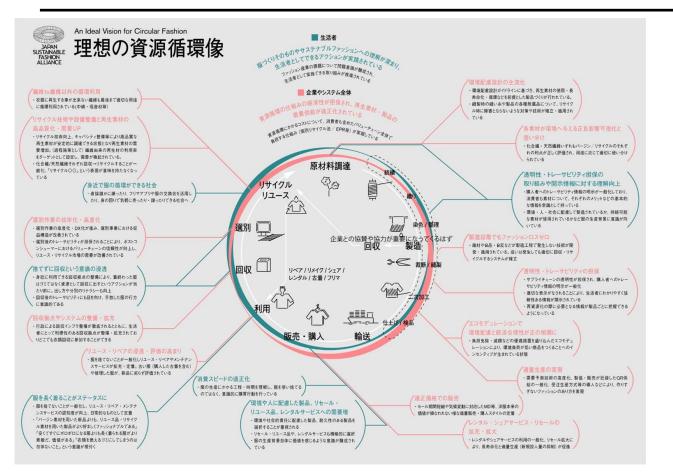
■繊維製品の資源循環の仕組み構築のための課題整理(フォアキャストでの議論)

- さまざまな業種が集まるジャスファの特徴をいかし、**繊維製品の資源循環構築のための課題について 業種別/業種ミックスで議論。**
- ●ファッション産業の「製造」「販売」「長寿命化」「回収」「選別」「再流通・再資源化」 各工程について、繊維製品の資源循環における課題や今後必要な施策等を整理。

■産業として目指すべき姿の明確化(バックキャストでの議論)

- ●2050年ファッションロス達成のために**ファッション産業や社会全体のあるべき姿について議論を深化** 最終化したものを基に政策提言やロードマップ策定を進行。
- また、ファッション産業や社会全体のあるべき姿については「理想の資源循環像」として外部にも発信。

3. ファッションロスゼロにむけた取り組み (「理想の資源循環像」の作成・外部公開(2025.9)



2050年ファッションロスゼロ達成の ために、原材料調達〜リサイクル/ リユースまでの各段階におけるファッ ション産業や社会全体のあるべき姿 について議論を行った。

議論結果について「企業及びシステム全体」「生活者」両視点で取りまとめた「理想の資源循環像」を作成し、外部公開した。

加えて、ジャスファ全会員を対象に 繊維製品の回収量に関するアンケ ートを実施。集計結果を元に<u>ジャス</u> ファとしての2030年回収量目標を 設定した。

3. ファッションロスゼロにむけた取り組み (会員企業の衣類回収拠点マップウェブサイト作成・公開)

生活者が回収拠点にアクセスしづらいという課題に対し足元でできる施策として、ジャスファ会員企業が実施するリペア/買取/古着回収事業の情報を一元化した「衣類回収拠点マップウェブサイト」を作成中。(2026年夏公開を目標) 古着を持ち込みたい生活者が「どこで何を回収してもらえるか」が直感的にわかるようにし、回収利便性を向上させることを目指す。現在、会員企業から1,000か所以上の拠点情報を収集・整理中。

現在



■ JEPLAN/ BRING ・回収拠点 4,720箇所 (2023.12時点) ・衣服



- ECOMMIT/ PASSTO
 - ・回収拠点 3,000箇所以上 (2023.12時点)
 - ・衣服、雑貨など

■ andSTHD/Play Cycle! Play Cycle! • 回収拠点 169箇所 (2024.1時点)



- GOLDWIN/ Repair Service
- ·拠点:直営店、Web受付
- ・自社製品

etc.

ジャスファ加盟企業はそれぞれ古着回収/リペア/買取などの事業を行っているが、 各回収場所や回収品目等の情報が一元化されておらず、生活者が回収拠点 にアクセスしづらい状況

マップ作成後



ジャスファ加盟企業による**古着回収/リペア/買取事業 の各情報を一元化し、生活者が回収拠点へ容易に アクセス**できるようになる

4. サステナブルなファッション産業実現のための課題と展望

繊維製品の「理想の資源循環像」を実現させ、ファッションロスゼロを達成するためには、 以下のような課題を解決し、具体的な施策を進めていく必要がある。

- 故繊維の安定的な回収量の確保・質の確保
- バージン材と繊維 to 繊維再生材との価格差解消
- 再生材の需要創出
- 反毛の品質表示ルールの改訂
- リサイクル処理施設のキャパシティ拡大と持続化 など

また、ファッションロスゼロを達成し、サステナブルなファッション産業を実現していくためには、

ジャスファだけではなく、**業界内の他団体の皆様との連携、政府・自治体との連携、生活者との連携**など、様々なステークホルダーと協力しながら取り組みを進めていく必要がある。

これらのステークホルダーとの連携を深めながら、引き続き、ジャスファは持続可能かつ循環型のファッション産業を目指して活動を続けていく。

